

はじめに

森林総合研究所林木育種センターでは、前身となる国立中央林木育種場等が昭和32年に設置されてから、この間、成長・形質の優れた品種や病虫害・気象害に強い品種、花粉症対策品種等の開発を進めてきました。

その成果の一つが「エリートツリー」です。全国の森林から選抜された「精英樹（第1世代）」の中でも、優れたものを交配してできた子供の中から選ばれた第2世代以降の精英樹がエリートツリーです。

平成23年度に関東育種基本区で18系統のスギエリートツリーが最初に開発されたのを皮切りに主要な林業樹種でエリートツリーの開発が進められ、これまでに全国で1,000を超えるエリートツリーが開発されるまでに至りました。

さらに、これらの中で一定の基準を満たしたものは、農林水産大臣により「特定母樹」として指定されています。特定母樹は、成長等に優れるとともに、花粉の生産量は一般的なスギ・ヒノキのおおむね半分以下であることから、下刈り等の省力化や初期育林コストの削減、カーボンニュートラルの実現、花粉症対策にも貢献することが期待され、国の施策にもその活用が位置付けられ、普及が加速しつつあります。

一方で、特定母樹の更なる普及を促進するためには、その優れた特性について多くの皆様に理解を深めていただき、採種園への導入、山行苗木の生産、そして実際に植栽していただくことが必要となります。

このため、林木育種センターでは、エリートツリー（特定母樹）の成長・材質・繁殖の特性に関するデータ収集・解析を進めてきました。今回、関東育種基本区のスギエリートツリーのうち特定母樹に指定されている73系統の特性表を作成し、公表することとなりました。

特性表の中では、各系統の成長・材質に加え、花粉の生産量に関係する雄花の着花量等の特性を評価をしています。また、関東育種基本区で、スギの植栽には、主に種子から生産する実生苗木が用いられていますが、実生苗木の品質は、採種園を構成する特定母樹によって異なってきます。このため地域の多様なニーズに応える優良種苗を生産するために、採種園を構成する特定母樹の組合せを「採種園パッケージ」として複数提示しています。今後の森林づくりに必要となる優良種苗を生産するためのサポートツールとして活用いただけると考えています。

特定母樹の更なる普及に向け、本特性表については、今後も内容の充実を図っていくこととし、引き続き森林・林業関係者の皆様とも連携を図りながら取り組みを進めて参ります。

令和 7年 3月

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター所長
箕輪 富男